学校だより
2019年度第1号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

2019年4月 9日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

平成から令和へ・・・“日本一”に挑む節目の１２年目

学校長　藤田 忠久

満開の桜と爽快な青空が祝福する中、春休みの間にも大きく成長した子どもたちが、学校に戻ってきました。春休み中にも岐阜まちの教育力を痛感しました。新たな仲間との新たな生活への決意と、進級の喜びに溢れる新年度の始業となりました。

午後からは入学式、元気いっぱいの新１年生を６年生みんなで迎えました。昨年度末に準備してきた台詞や動き、校歌やプログラミングされたペッパーが、新１年生の表情を和らげ、新１年生のその笑顔が６年生の満足感のある笑顔につながりました。

２０１９年度は、新１年生５８人を加えて全校児童数３３０人。今年もひまわり学級を含め、すべての学年が２学級でスタートしました。

学校の教育目標『心豊かで　自ら求め　学び合う岐阜小の子ども』、合い言葉『ふるさと大好き』に向かって、児童と職員総勢３６４人で“日本一”を目指す１２年目にしていきます。

どうぞ、変わらぬご理解とご支援・ご協力をお願いいたします。

徹明さくら小学校から岐阜小学校に転任して参りました校長の藤田忠久と申します。私自身の経営構想は、新任の時から変わらず以下の通りです。どうぞよろしくお願いします。

校長の教育理念・経営方針「ふじたvision」

ふ「福」を願う　じ「児童の成長最優先」（目的重視）の　た「対話と協働」による教育

- 「幸せになる」（自己実現）、「幸せにする」（愛情・貢献）力を育むために、説明責任を果たすことができる意図の明確な指導を絶えず意識し、「前向きに 直向きに」取り組む子どもを育成する。
- 子ども自身が「自分は成長した」と自信を持ち、保護者や地域住民が「子どもが育っている」と安心し、教員も保護者も人として成長していく、誇りに溢れる「成長を実感」できる学校を創造する。

長子配布

学校だより
5月号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

2019年 4月27日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

『百聞は一見に如かず』の続きから

校長　藤田忠久

今年度最初の「土曜日等の教育活動日」となった４月２０日（土）には、「新しい仲間と春を感じながら、ふるさとの山に登ったり公園で遊んだりする。」という目的で、校外での学習活動を行いました。私は、６年生と一緒に岐阜公園内での「狂俳の話」拝聴～「三重の塔」見学～「馬の背コース」での金華山登山～山頂での昼食～「七曲がりコース」での下山という行程を楽しんできました。

その６年生の「出発式」「到着式」と、学校到着後に帰校を出迎えた５年生の「到着式」で、次のような話をしました。

「聞くだけでなく、実際に見てみないとわからない。」という意味の**『百聞は一見に如かず』**ということわざがあります。よく知られたことわざですが、実は続きがあるということを知っていますか？

百見は一考に如かず … 見るだけでなく、考えないと意味がない。
百考は一行に如かず … 考えるだけでなく、行動するべきである。

何度聞くよりも実際に目で見ることの方が大事で、目で見ることで初めてわかることはたくさんあります。でも、見るだけでは何も得るものはありません。しっかりと見て、考えて理解することが大切です。理解することができたら、実際に行動に移してみましょう。理論上は素晴らしい方法が思いついても、実行できなければ何の役にも立ちませんよね。

例えば、「険しい道のりだろう」だから大変そう⇒「こんな山道」だけど何とかなる⇒「休憩しながら登れば」きっと大丈夫⇒「登り切れた」から清々しい達成感を味わえた。と、実行へと移す体験が、成長過程においてはとても重要だと思います。そして、それを単なる一過性のものにしないで“学び”が加わると「経験」へと高めることができるのです。「金華山登山」の体験に、「仲間と励まし合うことの大切さ、仲間の存在の素晴らしさが分かった。」という“学び”を加えて「経験」へと高め、「野外学習」や「修学旅行」へとつないでいってほしいと思います。

さて、このことわざには、さらに続きがあるようです。

百行は一果（効）に如かず … 行動するだけでなく、成果を出さなければならない。
百果（効）は一幸に如かず … 成果をあげるだけでなく、それが幸せや喜びにつながらなければならない。
百幸は一皇に如かず … 自分だけでなく、みんなの幸せを考えることが大事。

人は、「聞いただけで分かったような気になる」「見ただけでできそうな気になる」「考えるだけでやった気になる」「行動しただけで満足して結果が出ていない」という状況に陥ってしまうことも０少なくありません。そこから脱却するためにも、「百聞は一見に如かず」に沿って取り組めているか考えてみるのもよいですね。どういう手順で取り組み、何を目標にすればいいのかがわかるので、取り組み方の道筋が見えてくるのではないでしょうか。

長子配布

学校だより
6月号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和元年5月31日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

一人はみんなのために　みんなは一人のために

校長　藤田忠久

６年生が『考動』をスローガンに掲げ、５月２７日（月）～２８日（火）の一泊二日で、京都・奈良への修学旅行に行ってきました。私は、その出発式で「考えて動くときには『一人はみんなのために、みんなは一人のために』を意識して欲しい。」という話をしました。そして、修学旅行を終えて帰校した到着式で「出発式で話したことは意識できましたか？」を尋ねたところ、ほとんどの子の手が挙がりました。その振り返り（自己評価）を受け、次のような話をしました。

「今回のバス（先導車）の運転手さんとガイドさんは、昨年度も岐阜小修学旅行に行かれた方々で、その６年生の姿に感動して、今年度は志願して本校を担当してくださったそうです。６年生の姿は、学校の教育力の証です。今年度の６年生も岐阜小の自慢であり、私は県外の皆さんにもその姿を見てもらいたい、誉めていただきたいと思って、修学旅行に行きました。正直に言うと、１日目は物足りなさを感じていました。でも、夜の反省会で決意を新たにし、２日目にはとても素晴らしい姿を見せてくれました。一人一人が集団の一員としての自覚を持って行動し、みんなが一人一人を大切にする言動が多く見られました。この“一人一人”には、学級・学年の仲間だけでなく、お世話になった方々や、出会った皆さん一人一人が含まれます。特に、話す人の気持ちを大切にして、集中して聴き入る姿は、本当に誇らしいものでした。ただし、この修学旅行は、通過点の一つです。この二日間を自信にし、更に高みを目指して、運動会、社会科全国大会、・・・、そして、卒業へと向かっていきましょう。」

京都大学での学食ランチ（早く食べ終わった子は教室でミニ講義体験も）、タブレット端末（自分たちで取り込んだ映像を使ったプレゼン画面）を活用した「英語でふるさと自慢」、旅館や興福寺での校歌の合唱披露など、岐阜小学校独自の取組もあって、一段と「成長を実感」する二日間となったように思います。学校をリードする最高学年のこうした様子は、岐阜小学校全体の大きな原動力となっていくものと思います。６年生に憧れる下学年の子どもたちも、６年生をお手本にして「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を意識して考動していけるようになると、みんなが幸福をつかむことができるようになると信じています。

※「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という言葉は「One for all, All for one」の誤訳とも言われている。ラグビーや小説「三銃士」では「一人はみんなのために、みんなは一つ（勝利や目標）のために」という意味で使われたようである（約400年前の宗教戦争の時に「一人はみんなのために、みんなは一人のために最後まで戦う」という意味で使ったという起源説もあり）。

学校だより
7月号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和元年6月29日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

支える ともにつくる 挑戦 成長 （5年生「野外学習」より）

学校長　藤田忠久

６月２０日（木）～２１日（金）には、５年生が一泊二日で岐阜市少年自然の家での「野外学習」に行ってきました。私は、この出発式でも６年生の「修学旅行」と同じ「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を意識しようという話をしました。１日目の午後は、岐阜市「校外研修（市内の小中学校の先生方が研究授業から学び合う研修会の指導）」が重なったため、４時間程の“中抜け”をしましたが、それ以外の時間はずっと５年生の活動の様子を観ることができました。

野外学習最後の帰校式で、私は「一人一人がみんなの雰囲気を創りだし、みんなの雰囲気が一人一人を引き上げる素晴らしい野外学習になった。」という総評をしました。振り返ってみると、この「野外学習」の素晴らしさは、１日目の夜の活動「キャンプファイヤー」で火の神から授けられた「**支える**火」「**ともにつくる**火」「**挑戦**の火」「**成長**の火」の４つを使って表すことができると思いました。

５年生の素晴らしさは、困っている子や学級・学年のために、すぐに行動に移せる優しい子が多いことです。仲間を **支える** 意識が高く、支え合う関係ができあがっていると感じました。また、仲間の呼びかけに応え、けじめをつけたり楽しんだりする雰囲気を **ともにつくる** ことも、この学年の特長だと思いました。「キャンプファイヤー」の様子は、その象徴的な場面だったと感じました。

岐阜小学校５年生は、総合的な学習の時間に「長良川」をテーマにして「ふるさと学習」を進めています。今回の「野外学習」では、その一環として「千疋橋から岐阜小学校前（せせらぎ広場）まで、ゴムボートで長良川を下って帰校する。」というプログラムに **挑戦** しました。これは、保護者ボランティアやＣＳ「学び部」の皆さんの **支える** 気持ちや動きがあって成立するものです。梅雨期にあっては、奇跡的ともいえる天候にも助けられ、快適な「川下り」によって「長良川の素晴らしさ」を再発見することもできました。ボランティアの皆さんには、ゴール直前の“ゲリラ豪雨”にも適切（的確）且つ迅速に対応していただき、最後は晴れ間も見られる中で、１４艇全てのボートが見事にゴールすることができました。それを、学校の屋上で「おかえりー！」の大合唱で出迎えてくれた１，２，３，４，６年生の姿は、５年生の心に大きな感動として刻み込まれたと思います。岐阜小学校の新たな文化を、学校だけでなく保護者や地域と **ともにつくる** 瞬間となったのではないでしょうか。感謝の気持ちを忘れずに、この成功を喜び合いたいと思います。

事前の取組期間と実際の二日間の「野外学習」で、５年生は確実に **成長** を遂げました。「輝き見つけ」や「感想交流」での挙手発言をはじめ、表情や振る舞いにも、自信や余裕が見られます。今後のさらなる **成長** が楽しみです。

４つの火が、今まさに点火された！

長子配布

学校だより
夏休み直前号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和元年7月19日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

“前向き”な意志をもって「楽しむ」

学校長　藤田 忠久

岐阜市立中学校３年生死亡事案という「重大事態」が発生し、岐阜市では多くの反省をしながら、各学校で深く受け止めているところです。

７月４日（木）に行われた本校の「学校運営協議会」では、青山会長さんがいち早くこの事案を取り上げられ、「子どもたちの悪さや“いじめ”は、先生の見えないところで行われるものである。先生が当事者に直接問い質しても、正直に話すとも限らない。だからこそ、家庭や地域も含め、大勢の大人の目で見守ったり見届けたりしなくてはならないと思う。」と語ってくれました。また、委員の吉澤准教授（岐阜大学）からも、児童のアンケート結果を活用した「アセスメント事業（ＳＴＡＲ）」という支援の提案もありました。まさに、コミュニティ・スクール先進校としての素晴らしい動きだと感じました。

私自身は、こんな時期だから尚更、“前を見て”“上を向いて”進んでいきたいと思っています。岐阜小学校では、平成から令和への節目となる３ヶ月半の間に、伝統を大切にしたものや、新たな試みを加えたものなど、それぞれに成果を上げ、子どもたちの成長につなげることができたと自負しています。

小学校生活に慣れて地域への感謝を知りつつある１年生、地域のお店巡りによって「ふるさと」の良さを実感している２年生、社会科の視点で「ふるさと」を学び直している３年生、「ふるさと」の飲料水やゴミ処理などの社会科学習で力を付けた４年生、体験的に「長良川」を学びながら野外学習で一段と伸びた５年生、最高学年としての日常に加えて特別な経験もしながら憧れの姿を示す６年生、…これらの学校生活への「直向き」な取組による成長を、子どもたち一人一人が自信にし、明日からの「夏休み」の自分の生活に生かして欲しいと思います。

私は、子どもたちが「夏休みは楽しかった」と振り返ることができるように、自ら「夏休みを楽しむ」ように、心がけて欲しいと思います。「楽しいことをする」と「楽しむ」は似て非なるものです。すぐにできる「楽しいこと」をたくさん見つけて持っておくことも、気分転換やストレス耐性には大切です。それと同時に「楽しもう」とする心の余裕を養うことが、真の「人生を楽しむ」態度につながります。これは、常日頃の小さなことや少し面倒なことを「どうせやるなら楽しんでやろう」とする訓練の積み重ねの結果です。人は「楽しいこと」が起きるから「楽しい状態」になると考えがちですが、「楽しんでいる状態」になればこそ、既にある自分の身の回りの出来事が「楽しくなる」のです。出来る人ほど心のゆとりがあり、「楽しみ上手」です。いや、むしろ心のゆとりを持とうと意識的な努力をすれば出来る人になり、周囲からは「あの人、いつも楽しそう」に見えるのでしょう。

夏休みも「前向きに 直向きに」自分の生活や学習を「楽しむ」子どもたち一人一人であることを、心から願っています。

学校だより
9月号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和元年8月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

「日本一」＝“誰にも”“どこにも”負けない『心意気』
運動会で弾みを付け、社会科全国大会へ！

学校長　藤田忠久

夏休みには、コミュニティ・スクール（以下ＣＳ）「学び部」主催による「サマースクール」（１２講座）、ＰＴＡ主催の「６年生キャンプ」、金華・京町の各地域行事など、ＣＳ・ＰＴＡ・子ども会をはじめ、地域や保護者の皆様方に大変お世話になりました。改めて、岐阜小の子どもたちが、地域の中で学びながら成長していくことを痛感しました。本当にありがとうございました。

そんな長い夏休みが無事に終わり、今日から元気な子どもたちの声や姿が学校に戻ってきました。家庭で過ごしてきた夏休みから、学校での生活へと頭・心・体の切り替えを速やかに行い、９月前半は「日本一の運動会」を目指すことになります。

では、本校が目指す「日本一」とは何でしょう？競技会や記録会、コンテストやコンクール等があるわけではないことに「日本一」と決めることは誰にもできないのかもしれません。しかし、「日本一」と思うことは可能ですし、「日本一！」と誇ることを目指したいと思っています。児童会（委員会）活動、学校行事、授業の様子、子どもの姿、…**「心意気では“誰にも”“どこにも”負けないぞ！」と胸を張って言えるようになることを、岐阜小学校の目指す「日本一！」と共有しておきたいと思います。**例えば、高学年「岐阜小ソーラン」では、岐阜小と名付ける理由として**「日本一の心意気」が表れていることを共通理解・共通行動できる**ようにして、練習～本番に臨みたいと思います。その他の演技、競技、応援、係活動、全ての取組の一挙手一投足、一言一句にから「誰にも、どこにも負けない」という子どもたちの心意気が見えてきたとき、「日本一の運動会」が実現されるのだと思っています。

９月後半からは、運動会での「日本一の姿」を弾みとし、第５７回「全国小学校社会科研究協議会研究大会」岐阜大会２日目の１１月１日（金）には第１会場校となる岐阜小学校の授業で「日本一の学びの姿」を観てもらうという『心意気』を、全校で共有できるように取り組んでいきたいと思います。

【参考資料】ビジネスサイト「Tap-Biz」のコラムより

「心」は人の中に宿る魂であり、意識や感情、意思などの精神的な働きの中心になり、その人の考え方や人間性を司る大きな役割を果たす。「意気」とは、気概、溢れる元気、物事をやり遂げようとする積極的な気持ちを表す。つまり「心意気」には、物事を好転させる程の心の状態や、好転させたいという強い意思を感じることができる。「心意気」は目に見えるものではなく、あえて目にするとしたら「心意気」のある人の表情や仕草から伺い知ることができるが、本当の「心意気」とは自然に伝わってくるものであり、その波動が肌を通して心の奥まで響いてくるもので、その「心意気」に感動をおぼえ、時には圧倒されることもある。「心意気」はエネルギーであり、意気消沈している心の状態が続くようであれば、少しでも多くの「心意気」に触れることで、自分の魂を充電させてもらいたい。マイナスの感情は人から人へ感染し、同じくプラスの感情も人から人へと伝わって行くものであるから、私たちは一人でも多くの人に、プラスの感情を伝えることが大切である。

学校だより
10月号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和元年9月30日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

“日本一”の学びに挑む『社会科全国大会』まで後１ヶ月！

学校長　藤田　忠久

３年程前、今年度開催される第５７回「全国小学校社会科研究協議会研究大会」岐阜大会の第１会場校に岐阜小学校が決定し、これまで新学習指導要領に向けての授業改善に取り組むとともに、学習の充実を図ってきました。

当該年度の今年度、岐阜小学校の目標は「社会科全国大会の機会を生かし、“日本一”の『子どもの育ち』や『学びの姿』を観ていただき、児童や教職員のみならず保護者や地域の方々の“自信や誇り”につなげていくこと」です。その全国大会が、残り１ヶ月と迫ってきました。１１月１日（金）の授業公開まで、精一杯の準備をして当日を迎えたいと思っています。

保護者の皆様、どうか最大限のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

令和元年９月２日発行の全国小学校社会科研究協議会の広報紙「全・小・社・研」第102号には、第１会場の岐阜小学校を次のように案内させていただきました。

◆学校紹介

岐阜小学校は、城下町と官公街を校区とする岐阜市中心部の伝統ある二つの小学校が統合し、平成２０年度に開校した学校です。岐阜市初のコミュニティ・スクール（以下ＣＳ）に指定され、「ふるさと大好き」を合い言葉に、開かれた学校として家庭や地域と一体となった学校経営や教育活動を推進しています。

◆研究の概要

本校は、研究主題「よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習」を設定し、教材化や単元構成、学習活動、指導・援助の工夫に取り組んでいます。社会的事象を「自分のこと」として捉えることができる地域を生かした教材の開発、意識の連続性を大切に「社会的事象の見方・考え方」を明確にした単元構成、社会的事象を関連付けて捉え、多角的に考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする学習活動、社会とのつながりに気付くことができる３つ（実態、学習状況、定着状況）の見届けを行っています。

大会当日は、発達段階や学習内容をもとに、地域の人的・物的財産を、効果的に活用した授業を公開します。３年生は鮎菓子を作る和菓子店、４年生が長良川の水害に備える水防団、５年生は情報を生かす観光産業としての長良川温泉組合（老舗旅館）、織田信長の天下統一を学ぶ６年生は校区にある市の歴史博物館等から、それぞれコミュニティ・ティーチャー（地域の外部講師、以下ＣＴ）を招きます。ＣＴと共に考え、学び合うことで、子どもが社会とつながる実感を得られるようにします。

ＣＳの良さを十分に生かし、子どもたちが「日本一の学び」に挑みます。多数の皆様のご来校を心からお待ちしています。